

Ryu's Paper

リュウズ ペーパー

龍華図書館

2020 年 11 月 1 日

11 月号 (隔月発行)

Vol.20

2020 年も残りあと一ヶ月。コロナ禍の影響で、例年よりも時間が早く過ぎ去ったような印象があります。新型コロナウイルスへの警戒も引き続き大切ですが、冬はインフルエンザや風邪なども流行しやすい季節になります。しっかり注意しましょう。そして気分の沈むニュースが多い一年でもありました。体も心も労ってくださいね。今月号は八尾にゆかりのある古代史の登場人物「物部守屋」をご紹介します。

シリーズ 図書館でめぐる郷土

第二十回 『物部守屋の墓』

国道 25 号線を挟んで、龍華図書館の向かい側の道に石碑が建てられています。あの石碑は「物部守屋大連墳」といい、物部守屋の墓碑として建てられたものです。一体どんな生涯を送った人物だったのでしょうか。

物部守屋は物部家第 13 代の物部尾輿大連の子として生まれました。物部家は天皇家と同族である系譜を持った伝統的な豪族で、代々「大連」として天皇の補佐をしながら大和朝廷の政治を担当してきました。守屋は 572 年、敏達天皇の即位に伴い、大連に任じられます。その頃、日本では朝鮮半島から伝来した仏教を国家として受容すべきか、朝廷内で意見が分かれています。仏教を受容し信仰する崇仏派に蘇我馬子、反対する排仏派に守屋がおり、意見がまとまらない時期が続きました。しかし蘇我氏の厚い仏教信仰の影響で大和政権内部は徐々に信仰の波が広がっていき、排仏派であった物部氏との対立は深まる一方でした。

そして即位から 14 年後の 8 月、敏達天皇が崩御され、新たに用明天皇が即位します。用明天皇は欽明天皇と馬子の妹の間に生まれた子であり、即位には馬子の後押しがありました。崇仏派の勢力が大きくなるなかで、守屋は敏達天皇の異母弟である穴穂部皇子と手を結びます。586 年 5 月、穴穂部皇子が皇后、豊御食炊屋姫(または額田部皇女、のちの推古天皇)を急襲しますが、敏達天皇の寵臣であった三輪逆に阻まれてしまいました。それを恨んだ穴穂部皇子は逆の殺害を守屋に命じます。この一件で炊屋姫と穴穂部皇子が対立し、馬子がそれに同調します。よって馬子と守屋の対立もさらに抜き差しならぬものとなりました。

さらに用明天皇が即位から 2 年後に病に倒れ、「自分は仏法に帰依したい」と仰せになりました。守屋は当然反対しましたが、馬子はその言葉に従って仏教の法師を呼び、天皇の回復を祈らせようとしてしました。これを見た守屋は河内国阿都に退き、排仏派の仲間を集めて対抗しようとしてしましたが、用明天皇の崩御により事態は急進します。

蘇我馬子の計略で穴穂部皇子を冤罪により処刑する形で殺害し、翌月には泊瀬部皇子(のちの崇峻天皇)、竹田皇子(炊屋姫の子)、聖徳太子(用明天皇の子)らとともに、河内渋川にある守屋の家に攻め込みました。守屋軍も強かったのですが、馬子側が勝ち、守屋滅亡をもって事態は決着しました。この戦いを「丁未の乱」といいます。

享和元年の資料『河内名所図会』では、守屋の墓は小円墳状の土の上に一本松があるだけの姿で描かれていますが、明治の初めに初代堺県知事が玉垣を作り、墓碑と石灯籠一基を建て、現在の姿になりました。毎年、6月末に大阪府神社庁の主催により物部守屋の慰霊のための守屋祭が行われています。近くには討ち落とされた守屋の首を洗った「守屋池」もあります。いずれも八尾が古代史において重要な場所であったことを感じる史跡です。

【右写真】物部守屋大連墳



参考資料

『河内どんこう vol.51』 1997 年 2 月

『新版 八尾市史 民族篇』 2019 年 3 月

『わがまちの歴史散策 IN かめい』 2020 年 3 月

『物部氏の伝承と史実』 2017 年 9 月

『八尾市民文化双書 vol.4 市民のための八尾歴史』 1986 年 3 月

11月のTopics&Information



-Topics

子育て相談タイム実施中！

2020 年は、コロナウイルスにより保育園や学校が休校したり、リモートワークになったりした影響で、お子さんと向き合う時間が増えた方も多いのではないのでしょうか。一緒に過ごす時間はもちろん大切ですが、食事の用意や学習支援、遊び相手になる時間が増えたことで、時にはストレスや悩みを抱えることもあるかと思います。

龍華図書館では、月に2回保育士さんに来ていただいて、子育て相談タイムを実施しています。子育てに関する悩みなど、お気軽にご相談ください。

- 実施日 毎月第2・3金曜日
- 時間 9:30~13:00

※おひとり15分程度でお願いします。



目印は黄色の
エプロンです！



-Information 図書館のご案内

意外とマイナー？「太宰治賞」

昭和の文豪、太宰治。そんな国民的作家の名を冠した文学賞、「太宰治賞」をご存知でしょうか？

太宰治賞は、筑摩書房と三鷹市が主催する公募型の新入文学賞です。芥川賞や直木賞ほどの知名度はないようですが、筑摩書房は文芸誌を発行しておらず、賞の募集や発表などが一般の人の目に触れにくいことが一因かもしれません。一方、既成の文学観に縛られないところが、読書好きや出版業界からは注目されているようです。

第35回の受賞作は、阿佐元明さんの『色彩』。何かを諦めて後悔したことのある人たちへ、一歩踏み出す勇気をくれる一冊です。



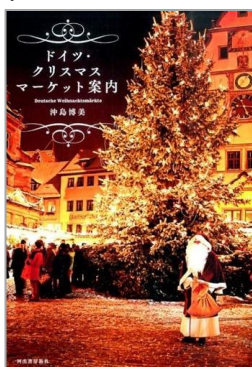
『色彩』

(資料コード:710663949)

阿佐元明/著

プロボクサーの道をあきらめ、塗装会社で働く千秋。それなりに充実した日々を送るが、美術の専門学校を出た新人が入ってきた。周囲に好意的に見守られる彼に違和感をぬぐえない千秋。嫉妬とも違うその違和感の正体とは…。【TRCマークより】

今月の一冊はコレ！



「ドイツ・クリスマスマーケット案内」

(資料コード:710527037)

著：沖島博美 / 出版：河出書房新社

コロナウイルスの影響で、海外旅行に行くことも難しくなっていましたね。

本書では美しい写真とともに、ドイツ各都市のクリスマスマーケットが紹介されており、眺めているだけでその場所にレポートしたような気分になれます。

また、意外と知られていないサンタクロースやクリスマスツリーの起源など、興味深いお話もたくさん収録されています。今年のクリスマスは家でツリーの飾り付けをしたり、お菓子を作ったりして過ごしてみませんか？家族で静かに過ごすクリスマスもきっと素敵だと思います。

編集・発行 八尾市立龍華図書館 指定管理者 株式会社図書館流通センター

〒581-0056 大阪府八尾市南太子堂 2-1-45
TEL 072-922-8007 FAX 072-922-7057
ホームページ <https://yao-ryugelib.jp/>

Facebook

情報発信をしていますので、
いいね！してください。

